

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500357		
法人名	医療法人 静光園 白川病院		
事業所名	グループホームきらめき		
所在地	大牟田市上白川町1-246		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果確定日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年12月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

出来る限り働きやすい職場作りを行っている。(意見が言える・やりたい事が出来る・休憩時間の確保など)
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームきらめき(1ユニット)」は大通りから少し奥に入った所にあり、静かな佇まいの敷地内にデイサービス・小規模多機能・高齢者専用住宅・訪問事業所などが隣接して併設され、徒歩圏内には母体である病院もある。グループ内は研修や委員会活動、防災訓練、施設間の異動などを通して交流がある。また敷地内には地域交流センターもあり、定期的に行われる体操やサロンには「きらめき」の利用者も参加することもあった。1年ほど前に異動で交替した管理者は「自分で考えて動けるスタッフの育成」に心を砕いており、また事業所としては、利用者に対して、その人のペースに合わせた生活の場の提供を心がけている。新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、従来行われていた行事は中止とせざるを得なくなり、日常的にも家族の面会や外出レクなどさまざまな場面で制約が生じている。その中で、可能な限りこれまでの生活が続けられるよう、職員も一丸となって支援を続けている。元通りの生活に戻る日には、改めて活躍が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の安心、笑顔、思いやり、感謝は日頃より意識するよう心掛けケアにあたっては地域と共に理念があるところはコロナの影響もあって実践できていない。	開設時からのグループホーム独自の理念のキーワード「安心・笑顔・思いやり・尊厳」は、事業所内に掲示(開設当初に利用者が書いたもの)され、またパンフレットにも掲載されている。理念に沿った目標のもとでケアの実践を行っている。理念の一部である「地域と共に」というところは、新型コロナウイルス感染予防のために難しい状況ではあるが、収束後に向けた思いは前向きなものがある。	会議などで唱和はしていない、との事だが、理念が日頃のすべての行動の礎になっているという認識のためにも、唱和することも提案をしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で交流することが難しくなっている。落ち着いたら地域のボランティア活動など再開し繋がりをもちたい。	町内会・自治会に加入しており、職員が清掃活動に参加したり、地域の方から花や野菜などを頂いたり、というくらいの交流はあるが、新型コロナウイルス対策のため、夏祭り、クリスマス会などの行事開催、公民館活動や地域交流スペースでのサロンや体操などへの参加、小中学校生による訪問などが中止になっている他、基本的には外部者との面会も禁止としている。	コロナウイルス感染拡大の懸念が払拭されるまでにはまだ時間を要すると思われるが、暫くの間は工夫をして可能な限り地域との交流を図り、また同時に、収束後の再開を目指して構想を練り準備していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との接触がない。発信出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で3月より自粛している。11月より再開。運営及びご利用者の日頃の状況等報告し家族や市役所、地域民生員の方より助言を頂き日々のケアに活かしている。	民生委員、市職員、地域包括、老人会(地域ボランティア)、利用者、家族らの参加による会議の開催が定着していたが、コロナ感染拡大の懸念から、本年3月以降開催を見合わせていた。その期間は、予め電話等で聴き取った事などをもとに、施設内にてそれに準ずる会議を行い、記録にまとめていた。11月に約10ヶ月ぶりに地域交流スペースにて参加者を絞って開催、状況報告を行い、意見等が出された。	内容について職員への説明はなされているが、議事録について、事業所内では公開しておらず、また家族への送付も行っていないと聞く。現状は家族らの面会(立入)禁止の状況であり、閲覧に備える必要はないとしても、家族への送付は、会議の意義や内容をよく知ってもらうためにもお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点等ある時は管理者及びケアマネが市役所に連絡を取り関係性を築いている。	コロナ感染拡大の懸念から、役所などを訪問することは自粛している状況ではある。不定期開催ではあるが運営推進会議への参加、不明な点に対する電話対応などを通して、また包括は法人の委託業務となっていることもあって、担当者とは懇意になっており、意見や情報を得たり、気軽に相談したり、といったやりとりもできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設の可能性のある方がおられる為、夜間のみ玄関、ホールを施錠。必要時は本人、家族の了解を得て定期的に必要性の検討をおこなっている。	日中は玄関施錠しておらず、夜間のみ施錠する。離設傾向の利用者(2名)に対しては、センサー設置の上に職員が気を配る事で現状では防げている。身体拘束防止委員会活動や年1回の勉強会(スピーチロックなども含め)の開催を通して、職員も認識を共有、原則拘束をしない方針で取り組んでいる。	

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んでいる。ストレスが要因になる可能性もあるのでストレスケアの研修も同時にあっている。日頃より異変はないか？コミュニケーションをとるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んでいる。家族から相談があった場合は対応している。利用されてある方がおられ勉強になっているが職員全員の理解は出来ていないように思う。	現在成年後見制度を1名利用している。事業所としては利用者側から求めがあった場合に備えてパンフレット等は常備しており、必要時には管理者が外部機関と連携しつつ説明や手続を行う体制が整っている。	職員の理解にばらつきがあり、不十分なようだ、との管理者の話もあり、今後、1年に1回の勉強会、実際の制度活用状況などを通して全員が理解を深めていってほしい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	難しい言葉は使わず、解りやすい言葉に直し説明を行っている。所々でここまで大丈夫か訊ねながら進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催と参加の呼びかけ。	利用者からは日常的に口頭で要望を聞いているが、コロナウイルス感染拡大の懸念から面会禁止となっているため、家族からとはお便りや電話などを通して連絡を取り合うなかで可能な限り要望や意見などのすくい上げに努めており、それを職員が共有して日常のケアに生かしている。	法人を通して独自のアンケートの準備を行っている、またオンラインでの家族の面会を検討している、と聞く。家族と面会して話す機会が途絶えている状況だけに、提案がさらにしやすい雰囲気や講じる意味で、ぜひとも前向きにすすめていただきたい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は独断で判断等しないよう様々な職員の意見を統合して行っている。	管理者は「自分で考えて動けるスタッフの育成」に重点を置き、職員側に対して日常的に、自由な発想、発言、提案がしやすい雰囲気や大事にしている。そのうえでアンケートを行うなど、職員の声にも耳を傾けている。	管理者が異動で交替してまだ日が浅く、職員の個人面談は現状では行っていない状況と聞く。コロナ禍での対応もありやむを得ないとは思いますが、定着することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な残業等あれば手当にて対応している。有休も積極的に使えるようすすめている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関してはタッチしていない。職場環境は自ら行いたい取り組みを行えるよう自由な発想や発言が出来るようにしている。	10～70歳代の幅広い年齢層の職員が、個々の能力や特技を勤務に活かして、生き生きと仕事をしている。事業所として、休憩時間・場所の確保、希望の休みやシフトの考慮もなされており、また上級資格の取得、外部研修への参加にも前向きで、スキルアップに努めている。	

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の定期会議や内部研修等に取り組んでいる。	事業所内にて接遇や虐待防止、権利擁護に関しての内部研修、伝達を行っている。	コロナの影響から外部研修への参加が難しくなっている状況はあるが、収束後は、人権関連団体や行政、公民館などで行う人権関連の研修参加や、外部講師の派遣やDVDのレンタルなどの活用を通しての内部での啓発活動が行われることが望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は新たなお知らせが来たら全職員へ周知している。内部研修も定期的を実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス対策により、こうした交流の場は控えている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が上手く説明できない事もあるが状況を見極め介助や傾聴を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時と入所時に現状と本人、家族の意向、希望を確認している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が必要としている事に対してはすぐに対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと入居者という間隔ではなく家族同様、親子という関係性のつもりで接している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には密に連絡を取り本人の不自由がないように心がけている。		

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの問題もありほとんど実現できていない。帰宅願望が強い方に関してはお宅に外出支援をするよう計画はしている。	コロナウィルス感染拡大の懸念もあり、家族の面会や外出・外泊、近隣の方や知人などの訪問なども見合わせざるを得なくなっており、外出も施設周辺の散歩程度に限られている。職員は収集している情報から話をしたり、電話や手紙を利用するようにしている。馴染みの事柄との結びつきの継続は、刺激の誘発にもつながると考え、今後もできる範囲での支援を図る。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間関係もあり席位置も配慮し何かあればスタッフが間に入り関係性が円滑に行くよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援出来ていない。次施設への訪問も検討する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望まれる事は出来る限り傾聴し支援している。困難な方は生活歴からその人の想いを考えながらその人らしい暮らしが出来るよう支援している。	アセスメントには独自シートを使用。利用開始時にケアマネジャーが担当して生活歴などを書き取り、ケアチェック表に転記したものを職員間で回覧する。プラン見直し時にケアチェックと同時に、利用者や家族の意向の確認を行う。職員は日常的に様々な立場で本人の思いや希望を引き出そうと努めるが、難しい方からは、反応を見続ける他、関係者からの意見を参考にするなどして意向の把握に力を注いでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を得ながら、その人らしい暮らしが送れるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで過ごされてあり把握は出来ている。その方の出来る、出来ないをアセスメントし支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフで意見を出し合いご本人の想いを尊重しながらケアプランに反映し作成している。	介護計画は計画作成担当者が立案し、3ヶ月ごとのモニタリングの際には担当者からの意見を集約している。ケアプランに対する実施チェックを通して、全職員が全利用者分のプランを把握してサービスできるように共有している。担当者会議時には主治医や家族からも意見の照会を行っている。	

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が不十分な所もあるが共有は出来ている。日々ご本人の状況も変化していくのでその都度、話し合いながら見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の必要とされる事は、ご家族と連絡を取り柔軟に努め満足して頂く。上手いかわなくても何でも挑戦していく心得。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流の、よかばい体操で交流努めていたが今はコロナの影響で自粛している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2名の方は入居前のかかりつけ医で他の方は母体病院で定期的(2週間ごと)に医療を受けられている。緊急時の受診もできている。	希望があればもともとかかりつけ医を継続できる(基本的には家族が通院の支援を行う)が、隣接する母体病院をかかりつけにする場合(月2回の訪問診療を行う)が多い。他科受診の際は施設側にて通院の支援をする。常勤の看護師による日々の健康管理に加え、緊急時の対応も迅速にできるうえ、家族に対して密に報告をしていることで、家族の安心につながっている。	歯科医師による訪問診療をすすめている、と聞く。ニーズに応じてのものにて、期待する。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば施設のナースに報告し相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会と病院からの聞き取りを行って安心して退院できるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。2名の方とは家族、病院と今後の話し合いは出来ている。ご利用者の状況はその都度ご家族に報告している。	基本的には事業所では看取りは行わず、重度化・終末期については病院で対応する、という指針があり、利用者家族には入居の段階から説明したうえで、事業所としてはかかりつけ医や訪問看護などと連携して、できるところまでの対応にとどめることにしている。事業所としては、早い段階からこまめに家族・病院との話し合いを進めることで、家族の不安の軽減に努めている。	

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の研修は年2回あっている。冷静な判断できるよう身に付けたい。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の訓練は年2回行っている。水害時の訓練はしておらず今年マニュアルを作成して共有している。	同敷地内の系列事業所合同での防災訓練(夜間想定あり)が年2回あり、消防署の立ち会いもある。避難誘導や消火器、AEDの使用方法を理解して実践したり、避難経路や場所を確認したりする他、日常的にマニュアルや防災マップの整備、備蓄物の確保を行う。	コロナ禍でやむを得ない状況はあるが、地域や家族への訓練参加への働き掛けを行い、非常時の協力体制が作られること期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識はして対応しているがスタッフも無意識に配慮が足らなかったと思う事もしばある。	声掛けや言葉かけなども含めたコミュニケーション、プライバシーの確保、接遇のマナー、排泄時など羞恥心を考慮したケアなどに関して研修を行い、また日常的に幹部職員から、または職員相互にて、注意喚起を行っている。個人情報に関しては写真利用も含めた同意を書面で得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、着たい服、温かい飲み物or冷たい飲み物等の選択する機会をつくり自己決定して頂くようなはたらきかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お聞きしながら対応しているが自然とスタッフ中心なケアになっているような気がする。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は起床時の洗面、整容声かけしている。女性の方はアドバイスで化粧もされてある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎ、野菜切りこみ、つぎ分け、皿洗い等喜んでして下さる。声かけではなくなるべく自主的にされる事を目指す。	メニューはその日ごとに担当職員が決めて、食材の買い出し、調理まで行う。菜園で収穫した作物が食卓に並ぶ事もある。利用者は配下膳、米とぎ、皿洗い、皿拭きなどを手伝うことがある他、おやつレクなどで簡単な調理をしてもらう機会を設けている。改めて嗜好調査はしていないが、メニューには利用者の意見を反映もさせている。食事形態や療養食にも柔軟に対応する。準備の時間の匂いや音は食欲をそそり、また職員も同じ物を一緒に摂る事で、楽しいひとときを過ごす。	

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一の体重測定、毎日の水分、食事量チェックし水分量が少ない方にはこまめに促している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけ行っている。介助の方はガーゼやスポンジ等使用しケアしている。必ず毎食後、確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングやパターンを把握し自立支援も」促し支援している。	トイレは、浴室とつながっているものを含めて4ヶ所、いずれも介助しやすいスペースがある。利用者別の週間のシートを利用して、排泄の有無や時間帯をチェック、それぞれのパターンを把握し、また誘導時間の間隔、おむつなどの変更などを適宜話し合って改善につなげている。排泄は夜間もポータブルトイレなどを利用するなどして座位での排泄を心がけている。できる限り自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時の野菜ジュース提供や日中レクでの体操等で身体を動かす機会をつくるよう取り組んでいる。その他、薬の調整で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を心がけている。一人ひとりの希望での入浴は出来ていない。職員の人員配置上、午前中の中の入浴は難しい。	週2回程度で、午後入浴を基本としている。拒否のある方も時間帯や担当を替えて、無理強いせずに働きかける。浴室内は三方向介助できる浴槽が配置され、手すりも多く移乗しやすい。季節の行事浴や入浴剤の提供などを通して、楽しくなるような工夫も行っている。皮膚観察や体調の把握の場としても役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、自由にされてある。眠たい時はお部屋に行かれ休まれてある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等Nsに確認しながら理解するよう努力している。薬が替わったり、増減ある時はアセスメントして記録に落として共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立されてある女性の入居者の方は皿洗い、米とぎ、拭きもの等の役割分担してもらっている。日中の様々なレクも楽しまれている。		

R2.12自己・外部評価表(GHきらめき)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出、出来ていない。最近施設付近の散歩くらいしかできていない。	以前は、車いすの方であっても買物にお連れしたり、バスハイクを企画したりするなど、外出支援に積極的に取り組んでいたが、コロナウィルス感染対策として控えることになり、現状では事業所の周辺を散歩したり、天気の良い日に庭でティータイムを楽しんだり、というくらいにとどまっている。	コロナ収束の折には、元通りの外出支援を、できれば家族や地域の支援を仰ぎながら、前向きに行っていただくことを望む。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者ご家族から現金は預かっていない。近くのコンビニと一緒に連れし支払いをしてもらう事もしていた。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援は出来ていない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に添った飾りつけや温度調整を心がけている。季節に意識づけも心がけている。	中央に庭があり、回廊型にリビングと居室が配置されている。キッチンアイランド型で、また日差しも差し込み、開放感がある。窓からの眺めだけでなく、季節の飾りつけを通して、季節感がある。障子や畳のコーナーからは和的な雰囲気が醸し出される。ちょっと一息つける所、ゆったりくつろげる所などが、共有スペースの随所に設けられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブルやソファも設置してあるのでテーブル席でうちとけたりソファに座り独りの空間でおられたりもしておられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたものを持って来て頂いている。	ゆったりとした広めの居室の入口はふすまの引き戸で開口も広く、車いすでも入りやすい。介護ベッド・エアコン・カーテンは備え付け。利用者は箆笥・いす・テレビなどの使い慣れた家具や、人形や位牌など大事にしている愛着のある物を思い思いに持ち込んだり、家族や思い出の写真を飾ったりして、居心地よく過ごせる部屋にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札を掛けて自身のお部屋がわかるようにしている。トイレの場所がわかるように「トイレ」「便所」と貼り紙して工夫している。		